



あきつ



第27号
令和8年1月19日
校長 田上 明男

『考える・つながる・挑戦する』そして、『できた!!』へ』

3学期が始まり、早くも1週間が過ぎました。冬休みを終え、学校には子どもたちの活気が戻り、いつもの日常が始まっています。今年度の登校日数は残り40日余りとなりました。これからどの学年も今年度の総仕上げに取り組んでいきます。始業式では、子どもたちに『考える・つながる・挑戦する』を、最後は『できた』という実感で終わらせましょう」と話しました。一人一人が自分の目標に向かって、力強く進んでいってほしいと願っています。

『校長先生、できたよ!!』～1年 昔遊び体験～

先週、1年生が「昔遊び」を体験しました。地域の民生委員児童委員の皆様や地域の方々を講師（遊びの先生）としてお迎えし、子どもたちも大いに楽しみました。

「校長先生、見てて！玉が乗るから！」とけん玉を披露してくれる子、「ほら、できるよ！」とお手玉を上手に回す子、「うわーっ、上がった！」と竹トンボが高く飛んで感動する子など、たくさんの笑顔を見ることができました。その様子を見ながら、初めてのことに生き生きと目を輝かせて挑戦し、あきらめずに繰り返す子どもたちの姿に、改めて感銘を受けました。



『横井小楠先生のことを知ろう ～6年総合的な学習～』

先週の金曜日、6年生が郷土の偉人である横井小楠先生について学ぶため、横井小楠顕彰会会長 光岡和隆様をゲストティーチャーとしてお招きしました。横井小楠先生は熊本に大変ゆかりのある方で、沼山津に「四時軒」を構え、幕末を生きた人々に多大な影響を与えました。子どもたちはしっかりとメモを取りながら、小楠先生が生きた時代背景や、当時の世の中の情勢について熱心に勉強していました。今週は実際に四時軒へ出向き、さらに学びを深めます。また、2月13日（金）には、毎年恒例の墓前祭に参加する予定です。



地域から見える子どもたちの姿 ～あいさつ・自転車利用を考える～

1月15日（木）、子育て支援ネットワーク会議が行われました。午前中に東野中学校の授業参観を行い、午後からは地区の民生委員児童委員、保育園、防犯協会、東区保健こども課などの関係者が集まり、意見交換を行いました。様々な話題が出る中、特に子どもたちの「あいさつ」と「自転車の利用」について多くの意見が寄せられました。

- ・ 「あいさつをしても、返ってこないことがある。知らない人への警戒心もあるのかもしれないが…」
- ・ 「大人からあいさつを続けることは、子どもへの優しさでもあり、継続が大切」
- ・ 「法的な年齢制限はないが、低学年の自転車利用でヒヤリとする場面も見かける」
- ・ 「3年生の自転車教室でルールを学ぶが、各家庭での判断に委ねられている部分も大きい」

といった、地域の皆様ならではの切実な声が聞かれました。

地域の皆様の声や、学校に直接寄せられる「危なかったですよ」といったお電話からも、子どもたちを取り巻く現状が見えてきています。子どもたちの安全を守る立場として、学校でも指導の在り方について考えていく必要があると感じています。

とはいえ、自転車の利用はご家庭の生活環境やお子さんの発達段階によって大きく異なるため、学校が一方向的に基準を設けることは適切ではないとも考えています。今後も、ご家庭のお考えを尊重しながら、学校としてどのような支援ができるかを検討してまいります。どうぞ、保護者の皆様のご意見をお聞かせください。